

確かなまなびと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価書】

堺市立みはら大地幼稚園
園 長 日田 香織

令和6年度 重点目標	【教育目標】 一人ひとりの幼児が自分らしさを発揮し、生き生きと遊ぶことを通して、生きる力の基礎を培う 【めざす子どもの姿】 ・心身ともに健やかでたくましい子ども ・自分も友だちも大切に子ども ・よく考え、やりぬこうとする子ども ・のびのびと表現する子ども 【各学年の重点目標】 3歳児「ようちえんだいすき」～安心して園生活を送り、好きな遊びを楽しむ～ 4歳児「ともだちだいすき」～自分の思いを出しながら、友だちと遊ぶことを楽しむ～ 5歳児「なかまっていいな」～友だちと思いを伝えあったり、力を合わせたりして、一緒に遊ぶことを楽しみ、満足感を味わう～ 【研究テーマ】 「つながり」「響きあう」環境構成のあり方 ～3・4・5歳児の発達を見通して～
------------	--

まなびの現状 ○自分からすすんで環境にかかわろうとする幼児が多いが、中には決められた遊びには参加できるが、自分から遊びを見つけた り、遊びを考えたりすることが苦手な幼児もいる。 ○植物や昆虫、砂、土、泥など、園の自然環境に親しんでおり、興味をもつ幼児が多い。 ○自分の思いや考えを言葉や態度で表現することや、友達とのかかわりの中で自分の気持ちを調整することが難しい幼児がいる。	ころ・からだの現状 ○昨年度交流の機会を多く設けたことで、異年齢児に親しみや憧れの気持ちをもっている幼児が多い。一方で、新入園児を中心 に、人とのかかわる経験が乏しい幼児もあり、園生活の中にかかわる楽しさや心地よさを味わえるようにしていきたい。 ○体を動かして遊ぶことを楽しむ幼児が多いが、経験が少ないために、バランス感覚や動きを調整することに課題がある幼児の 姿も見られる。 ○生活習慣に関しては個人差も大きく、家庭と連携して進める必要がある。
--	--

中項目		具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～8月)	達成状況 (年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	学びに向かう力の育成	自分らしさを発揮し、生き生きと遊ぶ幼児を育てる	●興味をもってかかわれるような環境構成を工夫することで、幼児が自分で考えたり、試したり、工夫したり、挑戦したりする姿につなげる	幼児が自ら考える、試す、工夫する、挑戦するといった姿が見られるか アンケートの肯定的評価 80%以上	幼児記録 保護者アンケート	年度末	◎ 幼児が夢中になって遊ぶ姿から、どのような環境が興味関心につながったのかを探っている。自ら考える、試す、工夫するきっかけになるような環境構成を今後も進めていきたい。 第1回アンケート：100%	◎ 幼児が友達とかかわりながら夢中になれる環境構成を意識したことで、幼児のいきいきとした姿につながった。公開保育の討議会においても、自分で考える、試す、工夫・挑戦する姿を参加者と共有することができた。 第2回アンケート：100%	◎ ・幼児の姿を捉え、遊びたくなる環境づくりに取り組まれていると思う。 ・幼児の姿から思いを読み取り、遊びこむことができるような環境構成に配慮されている。
			心が動く体験を積み重ねることで、思ったことや感じたことを自分なりに表現する力をはぐくむ	幼児が自分なりに思いや感じたことを表現しようとしているか アンケートの肯定的評価 80%以上	幼児記録 保護者アンケート	年度末	○ まずは幼児の思いを受け止め、共感することで、安心して自分の思いを表すことを大切にしている。心動く体験を今後も積み重ねていきたい。 第1回アンケート：100%	○ その子なりの表現を認めることを教師が意識することで、自分からやってみようとする姿が見られた。生活発表会ではどの学年も自信をもって表現する姿が見られた。 第2回アンケート：100%	◎ ・幼児が安心感をもてる環境の基本は、教師に認められていること、そして仲間と通じ合っていることである。 ・人的環境の意識をもって取り組むことにより、幼児の姿に変化が見られたのだと思う。
		教師の幼児理解を深め、保育力を高める	研究保育や、園内研修で事例を討議することを通して、幼児の育ちを見とる力を向上させる	幼児の育ちを多面的に捉えることができるか	園内研修 幼児記録	年度末	◎ 専門家の助言をもとに、環境のあり方や子どもの育ちについて、研究を進めている。また、5・7月の公開保育では、参加者の意見をもとに年齢にふさわしい遊びやそこの育ちについて理解を深めた。	◎ 年間3回の公開保育だけでなく、事例研や定期的な情報共有により、幼児の育ちを多面的に捉え、環境構成や支援をともに考えることができ、保育力の向上につながった。また、平尾小との合同研修も学びの機会になった。	◎ ・多忙な中でも同僚性を生かしながらよく取り組んでいた。また、ICT活用も有効であった。 ・公開保育で様々な意見を聞くことが、よりよい保育につながっていると感じた。
			●3学年のつながりを意識して、教育課程・指導計画を振り返り、幼児の実態や、学びの連続性を考慮したものに改善する	教育課程・指導計画のねらいが適切であったか、またねらいを達成することができたか	園内研修 幼児記録	学期ごと	○ 夏休みに1学期(Ⅰ期・Ⅱ期)の教育課程、指導計画を学年ごとに振り返り、見直した。	△ 教育課程、指導計画の見直しは例年以上にはできたが、活動内容を考える際に教育課程のねらいに対する意識が足りないことが反省点である。今後クラス数の減少に伴い、担任だけでなく園全体で考える機会がより必要になる。	○ ・期ごとに教育課程の見直しはできていたが、それを日々の保育にどう生かしていくかが課題。 ・まずそれぞれの年齢の育ちを理解したうえで、3学年を見通した保育を実践できるとよい。
豊かな心・健やかな体	豊かな心	自分も友だちも大切にしようとする子どもを育てる	●一人ひとりの幼児が認められ、大切にされる経験を積み重ねることで、自分や友だちのよさに気づき、自信をもったり友だちを認めたりする姿につなげる	一人ひとりの幼児が大切にされる経験を積み重ねることができているか 自分自信をもったり、友だちを認めたりする姿が見られるか アンケートの肯定的評価 80%以上	幼児記録 保護者アンケート	年度末	○ 一人ひとりのよさや頑張りについてを教師が見え、クラス全体に伝えることで、幼児の気づきや成長への刺激となるようにしている。 第1回アンケート：99%	○ 教師が意識的に個々のよさや頑張りを伝えようとする姿が幼児にも浸透し、互いを認めあう言葉や態度が見られ、互いに育ちあう関係につながった。 第2回アンケート：100%	◎ ・教育において難しいことであるが、それを意識しているのがよい。 ・遊びや活動後の振り返りは、子どもどうしも認めあえるよい機会だと思う。
			園生活の中で、友達や異年齢児、地域の人など、多様な人と交流することで、人とのかかわる楽しさや心地よさを味わう	人とのかかわる楽しさや心地よさを味わうことができるか アンケートの肯定的評価 80%以上	幼児記録 保護者アンケート	年度末	○ 異年齢でかわる機会を設けたり、遊びの様子が見える場づくりをしたりすることで、親しみや憧れの気持ちが育っている。5歳児は小学校見学に行ったことで、小学校への期待をもつ機会になった。 第1回アンケート：100%	○ 教師が環境構成や働きかけを意識することで、憧れや親しみをもってかわる姿が見られた。また、今年度初めて平尾小6年生との交流があり、人とのかかわる楽しさや心地よさを改めて味わうことができた。 第2回アンケート：98%	◎ ・小学生との交流は、子どもたちにとってとても新鮮で、興味深いことだと思う。 ・互いの目的をもちながら、異校種で交流できることがとてもよい。継続的な取組につながる。
		自然とのふれあいを通して、生命を大切にすることをはぐくむ	身近な自然に興味をもてるよう働きかけるとともに、飼育栽培活動を取り入れることで、幼児の興味関心を広げ、自然を大切にすることの気持ちを育てる	身近な自然にすすんでかわろうとしているか アンケートの肯定的評価 80%以上	幼児記録 保護者アンケート	年度末	◎ 草花や小虫など、身近な自然に興味をもつ姿や、栽培している野菜の生長を楽しみにし、すすんで世話する姿が見られる。 第1回アンケート：100%	◎ 身近に豊かな自然環境があることで、すすんでかわろうとする姿が見られ、不思議さや楽しさ、喜びなど多様な感情を体験できた。保護者アンケートでも常に高評価をいただいている。 第2回アンケート：100%	◎ ・うらやましい環境。子どもたちにとってワクワクする発見がありそう。 ・身近に自然があることで、子どもたちも進んで自然を取り入れた遊びができる。
体づくり		心身ともに健やかでたくましい子どもを育てる	●発達段階に応じた環境構成や遊びを工夫し、体を動かす楽しさを味わえるようにする	すすんで体を動かそうとしているか アンケートの肯定的評価 80%以上	幼児記録 保護者アンケート	年度末	○ 「やってみたい!」と思わず体が動くような遊びを工夫している。 第1回アンケート：99%	○ 幼児の興味関心に応じた遊びをとおして、自然に体を動かすことができるよう、環境構成を工夫している。保護者への啓発についてはより工夫が必要である。 第2回アンケート：100%	◎ ・子どもが興味関心をもてるよう工夫することで、自ら目的をもって体づくりに取り組むことができていた。 ・保護者に理解してもらうことは難しいこともあるが、幼児の姿を通して少しでも理解につながればよいと思う。
			保護者と連携して、基本的生活習慣の確立を図る	すすんで行う姿が見られるか アンケートの肯定的評価 80%以上	幼児記録 保護者アンケート	年度末	○ 保健だよりのほか、保健指導を定期的に行うなど、継続した啓発に努めている。 第1回アンケート：100%	○ 保健指導については、幼児の興味をひく工夫をしてきた。保護者との連携についてはより工夫が必要であると感じるが、幼児の変容を通して働きかけていきたい。 第2回アンケート：100%	◎ ・保健指導のことを子どもが家で話したり、実践したりする姿があり、子ども自ら興味をもって取り組んでいた。 ・家庭との連携が重要なので、より工夫が必要ではないか。

家庭・地域との連携	子育て支援	保護者と協力して子育てできる関係づくりをする	●園の教育方針や取組等を園だよりやHPを通じて発信する	アンケートの肯定的評価 80%以上	保護者アンケート	年度末	○	園だよりやHPなどで、子どもの姿やそこで見られる育ちをわかりやすく伝えるよう努力している。 第1回アンケート：99%	○	日々の保育のねらいや活動のつながりなど、手紙やHPで具体的な姿をまじえて伝えるよう意識してきた。写真を活用して分かりやすくすることで、保護者と幼児の育ちを共有するツールとなった。 第2回アンケート：100%	◎	・保護者に確実に連絡や情報発信する工夫を進めている。 ・わかりやすく丁寧な園だよりや、HPでクラス・園の様子がよくわかると思う。 ・手紙やHPで日々の姿や遊びの過程を知ることができるのがうれしい。
			預かり保育や未就園児招待の充実により、在園の保護者や地域の子育て家庭が、安心して利用したり、園に親しみがもてるようにしたりする	アンケートの肯定的評価 80%以上	保護者アンケート	年度末	○	未就園児招待、預かり保育ともに、利用する保護者の思いに寄り添い、信頼関係を築くよう努力している。 第1回アンケート：100%	○	未就園児招待、預かり保育ともに、常に一定数の利用があり、保護者のニーズにこたえるものとなっている。また、園と保護者の信頼関係構築にもつながった。 第2回アンケート：100%	◎	・保護者のニーズを知ることが大切だと感じた。 ・預かり保育や未就園児招待を通して保護者の信頼を得られている。

園長より

- 幼稚園アンケートでは全体的に保護者から高評価をいただき、1回めより2回めの方が評価が高い項目が多かった。2学期以降、様々な行事を経験する中で子どもたちの成長を感じていただけた表れだと感じる。また、ホームページ等で発信する際に、教師がどのようなねらい・願いをもって保育しているかや子どもたちに何が育ちつつあるのかを意識して伝えることで、より子どもの育ちを共有しやすくなったことも要因として挙げられる。
- 園内研修の充実という点については一定の成果はあったが、3学年の育ちを見通した教育課程の編成・実施については課題が残る。3学年それぞれの育ちを共通理解し、実施後には見直し、改善を図る時間を確保する必要がある一方で、教職員の働き方改革も求められており、今後より効果的な研修のあり方などを探っていきたい。

学校関係者評価者から

- ・子どもを見とる教師の姿勢が素晴らしい。視点をもって子どもの姿を共通理解できている。また、子どもの姿を保護者にも丁寧に伝えようと努力している。
- ・環境を大切に取り組み、子どもの姿をじっくり見て教育内容につなげているのがよいと思う。
- ・子どもたちが生き生きと過ごせるように、環境構成を工夫し、子どもの気持ちを大切にしていることがよくわかった。
- ・幼稚園アンケートでの各項目の高評価から、教育活動や保護者との関係性が良好であることが垣間見られる。